

Feeling excited

Dance with Heart
The Kikunokai Troupe
We are burning with enthusiasm
in creating national art for the new
era.
Chairperson Michiyo Hata

日本のおどり

発行：舞踊集団 菊の会
〒161-0031
東京都新宿区西落合 2-21-23
03-5983-6001 (代表)
菊の会 京都八瀬研修所
〒601-1254
京都市左京区八瀬野瀬町 10
075-712-8701 (代表)
<http://www.kikunokai.co.jp>

Dancing from the heart



在日アルジェリア民主人民共和国
特命全権大使
シド・アリ・ケトランジ



舞踊集団菊の会創立35周年
のお祝いに際して、菊の会の
皆様、特に私を含む世界中の
日本の友人に対して日本の持
つ素晴らしさを代弁されてい
る畑道代表に対して尊敬、
友情そして賞賛の気持ちをお
伝えするにあたり、大変な喜
びを感じています。
何度か菊の会の公演に足を運
ぶ機会を頂きましたが、毎回
その美しさと技の巧みさに魅
了され、喜びと満足感に浸り
ながら劇場を後にします。
純粹なる日本舞踊の伝統と現
代ダンスの幸福な調和は、数
千年の伝統によって育まれた
ます。

現代性を持つこの偉大なる国
を表現していると思います。
2006年7月にはアルジェ
リア国民も菊の会の公演を賞
賛する機会に恵まれ、歓喜
に満ち溢れたものとなりました。
首都アルジェで行われました
公演は、洗練された日本舞踊
の世界の旅であり、日本文化
を堪能するひと時でした。市
民たちは公演の中で衣裳の豪
華さと同様に、クラシズムと
現代の感覚の融合、動きと声
の美しさ、日本の踊りと劇中
にある美の作法の奥深さを鑑
賞する機会を得たことでしょ
う。

平成十九年 元旦

良い新春をお迎への事と存じます。
皆様のお蔭をもちまして
菊の会創立三十五周年の元旦を一同元気に迎える事が
出来ました。
心から感謝申し上げます。
今年も一年、作品創りと人材育成を目ざし共々に成長して
参りたいと思います。
今後共御指導、御鞭撻賜ります様お願い申し上げます。

尾上菊乃里事
畑道代

明けまして
お目出とつございませす

清元「熊野」



ただよう風格

— 金沢公演によせて —



石川県立音楽堂 邦楽プロデューサー 児玉 信

菊

の会とのご縁は、三隅治雄先生の演出による「阿国かぶき」で演出補をさせて頂いた事に始まる。「日本大通り」もだが、舞台づくりの現場に身を置くという体験や、その後「日

今はすっかり身内気分の私である。最近の菊の会の公演以外の場でメンバーの皆さんと出会うことも増えた。声を掛けてもらう度、舞台を見るのと同じようなさわやかな気持ちにさせられる。畑先生の薫陶を、そうした場からも感じるのがあるが、



舞踊劇「阿国かぶき」より

9月、私は金沢市にある石川県立音楽堂邦楽ホールで「日本のおどり」をみた。このホールでの公演は一昨年1月以来2度目のことになる。私の職場でもある邦楽ホールで、菊の会の公演を見る。そのうれしさには格別のものがあるのだが、遠隔の地というイメージがあり2年続けては難しいと思っていた。

印象を聞いてみた。もういつべん見たい。エネルギーが、若い力。肩のこらない、見て楽しんで感じる事が出来る。こんな答えがすぐ返ってきた。コンサートホールでのオーケストラ公演のために来ていた外国人指揮者が日本的なものを見たいと言うので案内した。時間がなくて一部だけ。二部も見ても良かった。当日のことだが、昨年の評判を聞いてどうしても来たかったと言いつつ、終わって噂通りと感激していた一般客もいる。

本のおどり」など畑道代先生の構成・振付されたいろいろな舞台を見せて頂く機会を得たことが、どれほど私にとって大きな財産になったか知れない。

芸どころ金沢は日本舞踊も盛んだが男性舞踊家は少ないし、私は菊の会の魅力をもっと知ってほしい。確実に種は根付いているはずだ。これからも度々、と願っている。

今回の演目は一部が「延年三番叟」「水仙丹前」「太刀盗人」、二部は民族舞踊詩「海はるか日本を躍る」である。舞台の貫目が上がったナアと思つた。今度改めて邦楽部の者に公演の



長唄「水仙丹前」

舞踊家の条件

現代の認識と演出

舞踊評論・演出家 石川健次郎

日本舞踊などの古典芸能を伝承する舞踊家にとって「現代」に対する認識ほど大切なことはない。思っている。それは一見、古典と現代とが正反対の領域のもののように考えられるのだが、その芸能を扱う生身の人間にとつては、現代と云う日常の環境から、そう易易と抜け出して独り古代に巻戻してきけるものではない。

そこで舞踊家の条件として必要なのは如何なる作品を演じるとしても、現代と云うフィルターを通じて現代人にアピールする能力を持ち備えて欲しいと云うことである。

さてそのための条件として考えられる要点は、作品的確な把握である。今、日本舞踊は難解であると云われる理由の一つに、舞踊の創造や、照明の感覚的な発想が古の過程の悪い癖として、演技者を認識する努力が舞踊家に課せられたことだけを鵜呑みにした

この多角的な統合である演出論については稿を改めたいが、舞踊作品の企画の展開による舞台美術の創造や、照明の感覚的な発想が古の過程の悪い癖として、演技者を認識する努力が舞踊家に課せられたことだけを鵜呑みにした

各公演には、石川県谷本正憲 知事、富山県石井隆一知事、金沢市山出保市長、小松市



公演を開催

本文化の波を!



狂言舞踊「棒しばり」

「迎春の宴」

昨

年で9回目となるACC荒川区地域振興公社主催、荒川区共催公演と埼玉県富士見市では公演と共に第3

回目となる菊の会ポスター展を同時開催し、菊の会35年の歩みをつづる数々のポスターを

各公演には、石川県谷本正憲 知事、富山県石井隆一知事、金沢市山出保市長、小松市



「来の力」



菊の会の力を更に

舞踊評論家
三枝 孝榮

平 成14年に文科省の小学校の学習指導要領に和楽器習得が加えられた。目的は日本の伝統文化の芸能や音楽を教育の中に取り入れ、誇るべき日本文化の普及に必要性が認められたからである。

今年、私は或中学校で日本の伝統音楽について話をした。驚いたことに世界の無形文化遺産に認定された歌舞伎を殆どの生徒が見たことが無いと答えたことだ。従ってその歌舞伎で演じられる日本舞踊は更に知名度が低いに違いない。その時の講義で三味線を20挺程用意して皆に弾いても



ドイツ公演でインタビューを受ける畑代表

に新しい体験に目をみはり、このような音楽やそれによって踊られる日本舞踊はどこまでどうやっているという質問を多く受けた。今、一年間に邦楽や舞踊の会は数多くあるがその認知度はたつた一握りの人達である。そして私は菊の会を思った。代表の畑道代さんとの出会いは古いが、畑さんは、さまざまな舞踊活動を経て舞踊集団菊の会を設立し、当時の仔鹿グループやひまわりグループがその意志をついで今大きな日本舞踊の一つの流れを作っている。だから学生達が伝統芸に接するのはどういふ所かと聞かれた時、菊の会の歴史を思ったのだ。菊の会は今年も大活躍で「日本のおどり」のシリーズを全国各地で展開

して、更にその延長として海外公演もある。前述の講義で日本の伝統芸能は海外でも評価されていることを話したが、菊の会もその一翼を果している。演目が伝統と創造として古典舞踊、わかりやすい狂言舞踊、そして創作、群舞、民俗舞踊など日本の舞踊のあらゆるジャンルが含まれているのもいい構成で、興味を持つ学生や一般の人達に親しみやすい内容になっている。菊の会によって日本の伝統芸能の普及発展と認知度の大きな輪が広がることと思う。

さて仕事の関係で地方の公演に今年は中々伺えず申し訳なく思っていたが、過日の浅草での舞台を拝見した。以前の会以上に団員の水準もあがり、団結力で各演目に踊りに対する情熱がみられたのは嬉しいことであった。数々の公演に対して切磋琢磨し稽古に励んだ実績であろう。畑さんの舞踊劇を含めて数々の公演が今日の畑道代と菊の会の多くの受賞にもつながっている。平成19年もすでに「日本のおどり 初春に舞う」からその活動が始まる。菊の会にとつて更に多くの人々に日本の芸能の面白さを見せて大きな飛躍の一年であることを祈ってやまない。



18会場で「菊の会」 今年も更なる日本



義太夫「延年三番叟」

長唄「藤 娘」

終了後には「来年も楽しみにしています。」と声をかけて下さる方も多く、賑やかな催しとなりました。



シド・アリ・ケトランジ大使ご夫妻と畑代表
(町田市民ホールに於いて)

2日、2日と行われた。荒川区では西川太一郎区長又、富士見市では浦野清市長よりお祝いのお言葉を賜り開催する事が出来た。

この公演に引き続き、9月27日、29日、北國新聞社主催により、金沢市、小松市で、28日は北日本新聞社の後援により富山市で開催、北陸3都市を廻り公演を行った。



長唄「藤 娘」

西村徹市長、富山市森雅志市長、北國新聞社飛田秀一社長はじめ各方面から、多大なご御尽力を頂き各地で好評を博した。これで平成18年度の自主公演は共催も含め東京、千葉、埼玉、茨城、群馬、石川、富山、で18公演となった。



長唄「石橋」



「国之狭土」

「飛翔」



「祝い太鼓」



「越中おわら節」



「椎葉の春節」

北陸だより

五十嵐瑠美子



五十嵐瑠美子さん(中央)と公演メンバー 武井則男さん(左)、飯田栄志さん(右)

一昨年、1月18日、初めて金沢にて「菊の会」の公演が催されました。北国の一月は雪深く、交通路が一切閉ざされるのが間々ある中、当日は公演中止の不安を余所に金沢の人達が驚くような小春日和になりました。それ以上に芸どころ金沢の人達を驚かせたのは「畑先生の舞踊の世界」の斬新さに加え、踊りで感動したのは、はじめてです……との談。そして、畑先生の踊られた清元「熊野」は鳥肌が立ちました。素晴らしい演技に酔いしれました。

昨年は石川県二カ所(金沢、小松)・富山県一カ所、合わせての「北陸公演」を開催して頂きました。富山県での公演は、畑先生が切望されていたことでした。その富山県での初公演は、舞台と客席が

一体化している様な光景でした。手拍子を打ち、身体が自然に動き踊り出す、帰りには口々に「感動しました、ありがとうございます」と笑顔一杯に……。「元気をもらいました。」と感動の余り涙している御婦人方も……。



北陸公演が終了し、小松空港まで公演メンバーを見送って下さる五十嵐さんご一家。2列目右から5人目が五十嵐瑠美子さん、前列中央がご主人の五十嵐瑞夫さん、後列右から6人目が長男晴夫さん、後列左から4人目が三男樹樹さん

一体化している様な光景でした。手拍子を打ち、身体が自然に動き踊り出す、帰りには口々に「感動しました、ありがとうございます」と笑顔一杯に……。「元気をもらいました。」と感動の余り涙している御婦人方も……。

昨年は畑先生のお身体の調子が戻らず、舞台にはお立ちになれませんでした。一昨年金沢の舞台を観に来て下さったお客様の中で「いぶし銀の芸の妙技を堪能出来ると楽しみにしていた……。」と口惜しうに語られたことが思い

Information

2007年菊の会公演予定

【菊の会新春に舞う】

1月1日(月)～31日(水)九州・別府杉乃井ホテル公演
スギノイパレス入場料:2000円/中・高校生:1200円
/小人(4才～小学生):700円 連日昼13:00/夜20:15開演

平成18年度文化庁芸術創造活動重点支援事業

【日本のおどり～初春に舞う～】

1月25日(木) サンシティ越谷(小ホール) 14:00/18:30
28日(日) アミュゼ柏 13:00/17:00
2月3日(土) 川越市市民会館(やまぶき会館) 14:00/18:30
【全席自由】入場料5000円(当日5500円)

【日本のおどり】

3月18日(日) 所沢市民文化センター・ミュージ(マーキーホール)

【友の会総会・懇親パーティー】

5月6日(日) 東京會館(丸の内本館)
11:00 友の会総会
12:00 友の会懇親パーティー
皆様のご参加をお待ちしております。

次代を担う若者達の舞踊会

【第9回さつき会】

5月13日(日) サンパール荒川

【第33回教室発表会】練馬区立練馬文化センター(こぶしホール)

8月13日(月) 教室発表会・前夜祭
8月14日(火) 教室発表会

※上記の日程は予定ですのでご確認の上御来場下さい。

■お問い合わせ

菊の会事務局 03(5983)6001
京都八瀬研修所 075(712)8701

心がうつつだすもの

COFFEE BREAK

コーヒープレイク

菊の会スタジオの一角に「茶房「舞む」」がございます。公演メンバーをはじめ、お稽古に来られた方々やスタッフの方、そして常連のお客様や近隣の皆様方にホッと一息、癒しの空間としてご利用して頂いております。

アトリエ公演の折には遠方からのお客様や公演の前後の時間をその日の演目の話題で賑わう、劇場ロビーのラウンジの様にして頂いております。

店内の内装は、卓越した素晴らしい才能でパレエの美術や衣裳で輝かしい業績を残され、畑代表の永年のご友人で菊の会の作品も手掛けて下さった故前田哲彦先生によるものです。また一つ一つの食器は畑代表が選び、メニューにも思いを込めたアドバイスもなされ、さりげなく飾られている絵も季節に合わせ、心安らぐ空間としてお客様にお越し頂ける様に選ばれております。

最近、読んだ平野雅章氏の「魯山人料理控」という本に「美味しい料理を作る条件は第一に材料の良質なものを選ぶ、次に料理法の概念を養う、第三に食器」とありました。

『腕がよいとか悪いとかではなく、それはその人』の問題で、結局そこに出現するのは作者の姿であり、善かれ悪しかれ自分というものが出るのであります』と。

畑代表の手掛ける作品は選曲・振付・衣裳・デザイン・小道具・大道具等、全てにわたり妥協せず、心を込めて作り上げていくところにその人間性にふれ、観る人に感動を与えたいと思っております。

日頃、私達公演メンバーも「上手く踊る事よりも柔軟な心と体が大切です。」と教えて頂いています。いつも初心を忘れず基本を大切に瑞々しい心をもった舞踊家に成れます



天舞グループ三期生 葛西 輝子

5歳より畑代表に師事
2004年全国舞踊コンクール(東京新聞社主催) 邦舞第1部に於いて常磐津「屋敷娘」で3位に入賞。
現在、畑代表の内弟子をつとめる中、若手女性公演メンバーの中核として菊の会の多くの作品で活躍中。

様、日々努力して参りたいと願っております。